



享和元辛酉春

歳旦

任吉迎春

慶五葺

初朝日兼く植ふ一杏能上 貞居
波ものときき輝ふる海 智兩
万春樂風ひつ舞川をめぐ 貞里

其二

二松菴

おとふきをかききく福妻州 貞里
同く舞下川之物の人 貞居
夾の風水好く流るる世 智兩

每繁茶

元思やちんも有徳よるはるし
千代のまきしをかきけり
躬恒かこあつうな水入山させく
智兩
貞里
貞居

大尾

商人の名はあや乃事言中
隆聖よ年のまこととあつせく
也しの言馬まもたてもあつる危
每繁菴
二松茶
清流洞

聖節

誹諧宗匠權輿村園三物

あしをたああ下七世

英しきこ夾ハ赤くく京の町
かき起き袖のすも羽二重
葉の状田主の批やちん
貞屋
百葉
李子山

松隣亭

千代の春竹は隣乃百かしハ
竹泊まき散りしえ日の門
あしかる野中ハ堪はあして
李子山
貞居
百葉

千歳館

日の春や神は春風吹おる
園一さしやかさ志女繩
市太良規のわくは詠問く
百菓
木子山
貞臣

歳暮

市人と梅まつせんは仕舞
おも知ぬ本に咲く花の冬
ちか海よき松風やぬは奥
千歳館
松隣亭
芦丸屋

元旦

河内之三物

李正一山出く今朝は門をさ
澄りユア山ぬおきの雲
夾のめ古く入りは神沼をさく
青掛観
加友
加東
文橋

一歌二

静月舎

神の音と人も感う大飾
庭の舞臺の白く素賢樹
お瀬うは道分たあさうま
文橋
加友
加東

一版三

岷山のこと葉はあや目能始

麦流洞

加東

何もさういふことあけるは

文檜

知るさるはあはさるふく百千為

加友

歳暮

東陽とちとちうくや海走快

麦流洞

花と待ふふもあふ大市日

淨母舎

あり車けふたつとくのすくさか

青梅觀

上日

常盤木の中にあきあはあきの央

席洞

今とちし着とち川を能色

智西

蛤のうらうらあまかゝあてて

青流

歳記

さしの峠あもふあしの林うあ

席洞

春情

目かへうう之日とあはああ

く

東君

み川きや徳む等も神の春

百條

六十九翁

注連もそよきし門を此翠

飛岳

酒肴はぞ川景よみ流えく

貞忌

歳季

方はいつら多羽の意塚をその

百條

年内之春

家の内々夾のきぬさや都榎

蒼天

初鷄のあまはくほし高きか

生々

空ひくくむくつら井の附

智西

道すくもあしの菴ぬ夾此際ふ

百葉

歳晏

淀川の流とあうふく大三十日

生々

春興

雪の小首アゲくく啼るけしき

庭先の木は咲きもて
花はく節とぞ

泉南佐野

梅も家との宝 廿園のもち家 戸秋

況くらんるえ 日の池 飛岳

いつまてう 妹脊の像と参る人 青流

卒歳

春を拓く日よ 追はるや 扇子折 戸秋

春咏

梅えつ小野古の 灌子砂下ちり

青陽

ぬつと出るよ 花の矢は射場始 随拂

青き 雲とく 矢とりし あり 青海

波の上を 采女 舟のり 合あき 李山

急景

光陰の乙矢といふ 人花のらん 蓮栞

春咏

花咲く人の 矢つは 吉野山

青帝

人ハ皆智恵なき朝ハ今朝の春

冬無改 勝鯉

只一ハゆき吹く如き風

飛岳

十ヲ家つともあつともふ土富く

貞里

別歳

培新の勢ひつるく年のくれ

徳輝

春吟

深山は六のころまき海子き

詔光

くまきこのまきくし明の水

十ト

門ハのちのかとく初る水

智雨

兔よ角もあつて揺り叶にく

百葉

年尾

道亦も迷つてとくの往来が

十ト

春情

るの日ハ芝居見よる花の人

元旦

東都

ふたも延ーく海心お日け 佯求

めでこきおるよ幾千代の春 貞居

ひくくと東風のさく波吹きて 杜宇

一囊射の号を嗣そあ

同

元朝やむくさくかくこ戸は 杜宇

華のうらみも匂ひそむ比 青塚

蝶々のさふさふと浄さく 波篠

正朔

今朝ハ赤く雀よ子し酉の年 蕉雨

お山うつくしくうさ 色 青塚

夾のる薔の育くけぬ出く 金吾

陽春

あつさうおくく夾日や矣場始 金雨

かげもさくくくさる 智雨

さくは桜の糸く風もあし 蕉雨

改旦

福妻州今朝少川くると嘆き危

白曉

一とせのはくろも
巨ふまへしと男を思ふ

はるのとうまうこふはふ門の杏

其白

明く今朝ゆさうさ華の大飾

里芳

つけてまへ門杏まきとまめあ家

百瓢

お鶏4神代のむし清くは

泉賀

大ふく心まの青葉花白くは

亀雀

正旦

短冊く年の賀えりん千代の春

河島長尾
路平

赤いふ日の暉くや江戸の春

東府
波鯨

門杏や直あま侍代の村風

花枝

提く見く思くくへく水祝ひ

寄昌

三始

おまや川辺の栲圍のう光

岸浪

春を定くうくひ妻のあし

青海

叔氣

大和三年

何れもまゝ夫婦の中へ居る鯛 龜遊

父母の礼とつう、今朝の夾 貞雨

元日やあも休る餅とく詩 麦兆

元日や財斗のとくおろこい 一橋

日の玉能宝ひきやはり 曆 新喜多 弥山

お鷄や園家あつた能勇あり 花洛 津里

ひるくもそあきまそはあ 同 歌知井

三九

悠くと箱つむやや金花城 英

お鷄やはもくく遠き水の音 時鷄

己と正しくして寝る疎くあこほとあん
句も又其意とさうとあん

十鏡改

餘は是くあそく今知小お日能出 梅之

あ水くうつらんやさうすうさ 菖洲

お鷄や夾のたあそ定るぬ 窓雨

元日やは 暁の海も山も 和幸

守歳

立春あはれ

すく掃くすく海と火の来り急

杜宇

一謙くとくみらふしお布外うま

波鯨

自修賀

六十そと名のつく越世の関

路平

神ふゆと灘すくまうる宝舟

飛枝

冬梅のひとりあはれ川や白し窓

奇昌

けしや何あはれ末き節季あは

金雨

角のあはれ鬼のやうありてのうら

蕉雨

分歳

きゆりてき追うけよ射馬射

百瓢

万歳ハ鳥帽子流ふ沙走加

泉賀

けしやあはれ又小車の

里芳

せりさと撞とあはれ除灰の陸

亀霍

蓬菜よ今一何の坂

白曉

宜くあはれ又きとあはれ

くまの〜とあはれ霞たきの奥

其白

除年

弓張の灯も矢のことしの的 亀遊
 す拂く清き住居や一世累 弥山
 州と赤に色香ふくやうの糸 負る
 浅とてはあけいとまのゆるいぬ 麦兆
 ひとふ追ふせしぬ 洞の勇 一搦
 とくのふれぬのま吉よるやまらぬ 浅里
 友遠き花の鳥やうし春 障 歌知井

寤絵

粟かくくも千金を大晦日 和孝
 けしき来る夾うもやてくく水 甚海
 手吹や席もうそむ叶の市 時鷄
 人と酔ふ下戸も朝露や忘 一巨
 手一お守護りはやくる男か 梅之
 いそかきやの春あくる節季は 窓る
 除お文く子夾風能くひるま 英

履端

収まかゝも携うゝも代々の春
さしくゝも潤ふさつこせ

七十四

布冠

青流

蔚律

代々の水や砂走新くそくも

布冠

三朝

八十のひとりのこほれくそく
後代もあきききあふるあ

八十二

梅貫

青流

大皞

考をどめききあふる花そ三の朝

卅晴

セツは

正直の流をゆくやま福の巻

夾豊

まあゝ根引の五形のせみく

東隣

八十の夾とま

大福の湯まきうゝある八重霞

豹鱗

あゝまかゝハる代々の毎

青流

文堂まも余ま句とせ積とく

蕉子

大尾

様とくや局のつま戸くまで

狗尾

兩節

あとしくのたつ海とちのた流か 種人

白杵の喜ハ海走れ笑ひる家

春咏

梅分くつらいろおー白杵字 後並

桃千里そく産湯のいなうた

花のゆめ網夢おれ門色る

春興

河野上太子

糸梅やこもりもえの三輪の松 西段溪

三春在臘

雪ゆハ夾の日かけや門たまの

孟嘗君の
故郷をさひき

同沢田

とくの関ま似も越る酒の春 七十二公翁 曾山

雑煮いく福三千お容

幕あしの華見る幕く碎勝く

年内三春

衆人皆冬あり夾よすある菴

春真

白ひ未だ風を枝折や舞の流 如環

まゝく入る風ゆもあひく柳か

指折く奈句仕くう山さく 有之

勝月裡く化く小僧くま 免眠

うらひまの田舎流くや初擧 百菓

雨の日ハ曲端くあそぶこころか 智西

歳旦

あまの目く霍の舞くも木折の門 梅岳

瓊矛くさくふいほうほし 難考 饅 蒲風

題謡

あそびても久くく流る難考か 沙明

大尾

ちとりの尾く尾ハえせぬ 蒲風

人もまことあし 流るる市の倒 梅岳

題狂言

やまのそくく 流るる 沙明

歳始

富みてくく屋 浮へり、あ朝日 子鳳

大尾

松市の競ひと逢此矢あが

年内三春

梅も夾も室く 咲せく 星氷が

春典

あ艸也 路とけり 夾の風佳し 長文
るの 様園と 自ひのこ 河小 危

春吟

ホク風くくくき 道あり 落し 角 池文

春情

糸さくく ぼくく 風の 吹て 飛る 葵立

夾典

舞く 舞ふハ 梅くくく 心う 家 雪漬
青柳ハ 氷える 春くく 河人 あり

上日

暖やけ 舞 ぬ 曙の ひもと 市風

歳末

清めさすへ三十日ハ 春の 清 桜川

春興

凍りけや梅見くぬる雪の跡
素袍の袖く七叶紅土
挑央
青家

春詠

散る花と人うかくとふる女危
二木

歳旦

あまのかいこを染くぐり
文孝

七言

保る女あちかふとくの事

春興

墨の江くくふる清ぬ春の風
鶏英

歳末

とくの市又あくし女まつふ
昌房

春情

蟬舟の寝あきくくあきあき
巴汐

三元

門空やるあ月日の氣木戸
七十六翁
只後

歳晏

ふんりくくの園ささくちけ

改旦

大和生駒谷

五溪洞

新しき夕アと去きと今朝乃春
おもきろくくとうゆる裏白
小傾城幾千金の膏あふ

栴栗

杓岳

青嶽

廿二

如難煮ことばのく舟も白くあ
膚若獲と中くきおや福寿州
ふ十下二里此道乃氷目

あつた

清流

栴栗

杓岳

廿三

有世奔

杓岳

青嶽

栴栗

毎の尖勝く空此あけらる
はやきハおそき二夜乃水
くくくい名もあきき此物く

大尾

くくくくくの世界やと此市

春内を春

唯く尖先あふふやとこの内

春吟

糸穂小四方おほしりく家大和

鶏旦

河内楠葉一連

おろや月雲華の朧より
 主柯
 咲あゝ梅也法木の太良月
 荊明
 叶未り梅の笑顔今朝の春
 夢輪
 花と積蓬菜山の目西より
 文花

除年

ひとと心園ふくく有あう
 荊明
 勝丈の秘あもあひせり
 菱端
 除あふけく髪結あも女か
 文花
 運斗も淀戸と舞る年の坂
 主柯

歳旦

高月一連

牙家の其あもとわ千代花火
 いま

平四の女と定へく

年うけの年あきり川あ人俵
 雨緑
 高安の窓もあも今朝乃央
 鳥曉

分歳

光陰の矢尻掛いつ央待あ
 雨緑
 考さる也笑ふく年あもあも入
 いま

年内三春

梅うきく鼻のせりく年の坂
 鳥曉

冬真

臘八や鐘のうらみ地を走れ 冬

春情

凍るけや田毎く雀は足乃泣 春

春典

火とともを梅くたまん 夾の雪 未粧

梅る雪と吹去りやる梅か

夾のく雪と梅くたまん 男 露井

大旦

汲上りて其る水く笑顔か 枝洞

歳記

婿やとゆもさあうり餘年の達

春咏

雀のま似笑りくくへ根芥梅 艾明

年内立春

二河走るく宝河り梅の集 由歌

分歳

行多せくくもくくも雪ま舞し 亦時菴

河原豊浦

同

河原畑

栞谷

馬山

同

二

立春後の大町寺

淡島下田

おこやうと神の春風とそむ

談公科

餅の花もけしきゆめのみ

智西

おかしハ餘カの毎々植ま

青塚

新歳

同飯尾

改玉のいつる安や不二の明

枕流

三元

太はさるあ〜〜〜とのあ日か

水朝

早春

讀み白き

志あ〜〜〜の尖のつらぬきぬるる危

栄海

正朔

備中富家

鶏のきよの用くや今朝の袖ま

蛙子

歳暮

いつのろ〜〜の雲や〜の梅

年頭

和加郡山

別端と喰ふ人もあ〜之の朝

不石

冬内を春

門〜〜と格と〜〜のつ〜

急景

世法〜〜の中〜〜の流

立春を臘

廿八日や雪の何れに白ひふれ

然野田

井花

おつ福ハ一葉の浅も
かみみまうし

貧乏の扱も入るとさう小ぬ

改旦

河内寺村

盛砂とらう家此不二口初日影

貞亭

又物の実あゝささやと川目かけ

同

籬亭

歳暮

穴射障のほろとけきや除おの謹

節分

節分かのぬるぬ梅の行急ぐ節

其亭

春興

同郡門

白梅やあゝいそく細 詠

古光

おまへ神の信あゝる娘志のあてまきよ
問てまの言あゝい出侍りく

淡嶋春日連

毎く毫きあもさのいし十かへり

子竜

花々嬉くとお川はし十くくの

布川

追加

杵ま婦 霞から山のホてもあし

羊窓舎

冬牙

春情

藝品小方

水の上をふく影見たり女嬉也

可友

風やうきうきと起りさきの夢

青塚

大工小工あひの中を夾らふ

智西

正朔

左海

八十六公羽

松雪の明はいうんそあうそ

聖山

歳暮

すくく百川易く一途の流

冬吟

同

冬のかみらふもんとくも白し

蔓友

春興

同

春月や空をよみ出るハ梅の影

弓六

元とてはぬふハ

播磨中野

明く今朝花きかきハ其の足

春林

七言

十歳盃の粒被ぬらん春の坂

春詠

刀根山

白桃や春夫人きく輝し

如流

城兵定

青柳の三日降るの朝をひ

吐風

三春在暎

春やとく井底の下ひも春の春 有鳳

春興

蝶々々々 初春の始をさぐる危 只直

早夾郊外より

羽織くけ日南さる梅見か 丁東

春情

武士の女つれあるさくらさくら 巴丈

船中吟

あゝふふ木の芽州の芽登船 杯五

初十日今宮社系も内帳と氷と

かき地うりたぐく喜賀賀七五良 和幸

弥生

等降く待や羽立のかきつと 州晴

十日吟

眼み余る宝の山や急ひと市 岸浪

春興

さまくよ娘とせく小川お橋 戈嬌

春日吟

蕨く酒いつれと山巴枳 奉 舍田

凡奉修十面法息災延命所

身之秦修不動身護摩供諸願成就所

春興

春の風とせの廊下とくくり危

大江丸

衣食住梅少くうへく梅か

梅後

乞食も志あふふくも梅か

拾宣

聖淡くもく白子のあ梅

鬼春

野路の梅馬引むけく通り危

半也

春興

やくそくの太良せくく梅こ 止費

お一おの風地くえゆ小梅 玉翁

内立春

梅梅雪つるり央此立すく 只爰

詩毫

白梅や浪華の央々華か 乙丸

春咏

お年や子供かけく州子伏く 氷丸

左筆

正朔

東府連

君々代ハ世を私ともまてても

誹諧堂 葛呂

坂上田村丸、勢弱於麻の悪鬼と志つちまては源頼光ハ
丹波の鬼洞み分入是と討て天下泰平此忠勸より
士も亦大君の私家の玉ちハ平ハ発句もて其の
交りして目ふも入るる鬼やハの悪魔と返答て目出
度出するんふとさハいもつてあはふ子等と抱く神ハ
うちく

鬼打く豆て争とそとくくく

題梅

浅る雪よ白燭をくくあつち

葛樂

麦や一よと海く好世うちの妹

葛赤

椽先へ禱をそむうえ此妹

葛童

枝道の梅くさくくま

葛海

舞雲を起く自ひ天ふ此やる此妹

葛梅

ほんのつと梅く旭此自ひ可事

葛里

梅く雪やほのくくく志川の中

葛蘭

うめ咲や久くあつめく蝶ひとの

葛山

やう梅ハ文氏二道と俵へく

葛戎

長加

千金の男てらんとう免の花

葛呂

春興

夾お小の秋咲ちづの飛た良

神号と流りうぬの貞徳公羽の園を
江都よりしり披るすとまきし

集るや小詠造の大やしろ

宗祖の治とまきし園と京都よりし
神靈とすしりしとまきし
園の主負江光の詠詠園とまきし
まきし天徳の赤染筆と流りしりし
まきし額面とちりし詠詠とまきし

あまきりお新くやてまき材の園

青家

春興

寺くの澄け雲のさくら時

百葉

花の外ハ春とくくくらしの鐘

あまはとも先咲くけぬ京の梅

里芳

植く松匂ひまさるぬ津の梅

叶翁

春雲よ入雲のほくは出ぬ

生々

有明の勝よほくくかきし



元旦をさすく

月日星けよあけのあきか

都友

歳暮

月日星とあけのあきか

春興

雑波の春のけりあけの尺

多田

歳始

注連、来る風静あけ今朝あけ

如雀

萬歳やあけ大君のあけ使

三朝

任吉や東風も淡路の告ちりあ

有無

森岳

生小あけのあけ日あけ川

毎繁

社吟の例をかき

簫の音あけのあけあけあけあ

鳳翔菴

未佛

元日やあけあけあけあけあ

光々籠

田毎

すく見あけのあけあけあけあ

他諸舎

つあ

あけあ

百姓もあけあけあけあけあ

田毎

あけあけあけあけあけあ

つあ

直く吹風そあけあけあけあ

未佛

春吟

梅咲や糸糸式部の多使 杜宇

春柳の風くきく川こもはるく 波綠

あつ川が蝶み笑ひし娘や 飛枝

きよまゝの葉ざしく此や春の雪 寄昌

雪もすゝまはかく小ふし梅の毎 蛙子

梅くまのいとふつゆき白した 白曉

春咏

あまふくも清とよ夕雲雀 貞里

村いつこ霞ともし人のまろ

やくそくの目やうおそき央のこ 一巨

央川のけりそきくくお瀬吉野 泉賀

と流風くちくせはかきくおみ葉 田毎

傾城のかけうつうくく央のま 智兩

春興

東府

あしと仮名も曆も抄うを 宇呂葺

あまきや甲ふはうとき女の子 千秋

百あまハま揃ハまうつちまか 三崎

英風の傳とさそくく甲の流

歳旦

節が高砂町の春 釜木 乙瓶

せいほ

生男のえうくあくくしの雲

春吟

梅咲く吹流く似る籠うを

ほひを翁ふや翁の夾み笑 諒生

夾るく鶏の糸尾の端指し 孝造

兆殿司入とゆきと華の山 兼谷

雪の白眉家ハああうこあうは 柏庭

春興

伊丹連

春晴く後うらひそのあきか 東尾

いろくく抱えうらまのる 多一

春入の中くからしむを記 布川

歳始

田つらん藩の宿みお目か 旧門

万歳の親子とくくめでる流 荻丸

春あめぬあまの影ほあめ日か 左笛

正色を鏡くくとは川目か 五調

せいほ

家くの人かじあまのらん 左笛

室をいひしあまの獄骨かきり 五調

くアア今きもすてらん水か危 布川

らんくともきさの流のひきか 旧門

冬吟

か蛙やあゝたゞしき梅の鼻

苔抱

春興

見上小ハ其樹ていあー散様

寒馬

浅田

春咏

白梅や雪も降来て其白ひ

素壺

池田連

畑おやめハかゆらふのそれ髪

李凍

春さうんく牛追ひ紋と春の山

遅春

春吟

冥さも笑く通とや傀儡沙

カウベ
二巾

春興

菜の葉く有ニ波なきあうあ

有丘

脇ノ後連

花すゝ九州の筆ハあくゆうあ

哥林

春咏

斧の柄も葉く清くう拙うあ

羽毫

尾崎連

山鳥の尾く永き水のう川まぐり

有橋

春興

孤舟と掉さうとせ

臙

月

兵庫連

春かき雪の主よめ茶賣

楚調

猿引のちうき中の春あり

五風

月と人と女の左心へお小玉

吳来

うらなふハ満き二月様うな

遠秋

折くの風と雨しうり夾の色

文海

吹うぬ日もちりりと揺うな

里水

梅はとれく先くうんと白ひ危

不二彦

花の山すくく月おみ残るり

桐栖

歳旦

福妻州とすくく女の春来う

縁川

春情

梅う香よこそくして

臙

鳳托

野村

梅咲やまはお備の活やくし

長栖

可亭

村正中少雪

久野川の羨望も悔むひんか 十南春

節分

うきあふおのうか野の星と雲 巾糸

四十四の夾と逢く

四方の夾齡もろ四十四か 舎様

春典

春の月あじしとあふか月あか 八千坊

いろゆる育とゆめく様うか 里峰

能因坊と尋く

顔と日よさししてあゝの蛙うか 戈嬌

冬吟

臘梅く星もほときあうか 益之

早春

我襟と人あ答そ一ま梅 可様

春典

難波江もけ水泳一芦の角 五流秋

のりりる五日と送る急揚柳枝 白眉坊

春興

脊のひきまははるけくさるる

馬首

鐵砲の火を先傳ふや山さるる

東籬亭
菊郷

柳橋を爪のさるる雪解か

三支菴
三力

弓の勢たきとく小ハ新じき

青味

内立春

夾ふ川や海の内外のるは山

不二葎

春情

さのふく柳の川より水かき

蕉雨

大名をかきとあはるるさくち

のとけくもふきりふはやま山

金雨

月と雲よりあはるるしるはるち

貞る

青くくと夾知く教の柳亦ち

清里

臈おや庭く散るる美の雲

山浪

春興

お梅は何とて飛ぶ娘の子

李山

おふくも小石海多うけしる葉

加友

とさうう糸柳とく氷き日や

加東

毎の咲あつと氷く成るる

文橋

たもとかく机へ土着のつくし加

亀遊

たう梅しかまとと地さう山さう

歌知井

年内立春

冬の内に夾は立花白ひと

百菓

と此春梅るるまると成るる

青海

いそかき中もとらや冬の夾

李山

春興

夾のあつきは此花も梅里恭

市鳳

杖持く稚うう海わうり草

梅岳

香くさるる夾は此みとら臈舟

蒲風

井内峠めぐ

雪の日の表 啼か

晚翠

始々吉野の
波の娘の娘

さびしき山をよるまてのさびしき山

春興

かゝ橋の先梅の香に流るる

亀河

菜の花の湖の舟の行は漕

三五堂

馬両

歳始

能周の白き法海はは川霞

松篁屋

深之

春興

らくそくのまきり夫のあや

河内古市

楳七

新くつぬまのく白くや朧月

同

亀六

春の月さくらさくらさくらさくら

某沙堂

一郷

蝶くや名もとまらぬあまのこ

南都

東卜

春風や路へ吹出るる海の裏

泉平小路

如梯

春吟

初々風そきくう夾の氷 種人

りくふく岩くさ分のさくか 全芽

み殿ハ木馬の鞍子拵のぬ 才鯉洞 道生

春のや妹のぬ流ふ梨の花

大根のぬくふくく 蟻慮菴

乃子雀一枝おふふくく 排雲菴

歳旦

唐蕪汲んく下戸も上戸に若う代の 吳文

年指

卓の拵やうくの夾くはの句

三朝

子代くみ代かき子てふふく鏡餅 河島君治 加陽

年尾

傾城の下結きセハくは走

夾興

汗枝み日そくくのこと 同桑屋 春の雲 吉野彦

聖節

河島泰連

実の葉の門み入うらまの春 芦江
影ある水は暖み川葉の夾 里月
常盤木の朝かさうらまの春 里月
水家も入るせ路うらまの春 湖月

窮捨

折う枝の雪掃くえまのまは 三朝
閑さうのぬくふるへうらまの春 運多

冬吟

雪あふのいとやましく山室の枝 花月

夾吟

いとくも様よ小口下きく 芦江
賣葉のまけよつじと流り急 湖月
飛ぶの踏まふ一節うさく 花月
折さく火燵出るまよと成よ急 三朝
雪葉とくも水鏡のホうく 里月

夾典

同北条

千金の價あさるやおのうらま 巴月

同佐三番

夾の口軍ちよるうらまの山 里月

春興

長閑さやもくしひ笑と川白ひ

河内西郡

土生

明きくも雪よ雪入るひさくち

同玉串

楚山

夾の竹園の清みと尋ふく

千司

菜の花や何ふくふ友の這入口

舎風堂

東堤

ぬけ美宮柳千本の徑うか

甘千葎

春興

散る花咲く浪のまよくさくさ

佳友

菘入のふふくえてけ都か

布引

栄滝

白梅や四五十日と咲ゆ

有馬

梅塙

川風の定まらぬ方うり夾日うか

洛

其成

啼ぶく雪よ眠るや遠いさく

同

籬岑

春吟

浅沢も携お於山もかたみうら

江戸

春蟻

雪のあをひきみみと遠き如

丹波

武陵

餅脍のふやこもあくるあ様

但馬

尚古

柳吟の家路く色き人の声

能登

伎卜

焼もせぬあのだくはきつ白く

湖東

素艶

夾冊

其沙流と志おくれくく春此雪

河島星田

素水

人きく山志のくあう朧

同松提

似風

正月のふゆきりく嬉ひと家

ユツニ

仙虹

真山やけりききとと尖此色

同

是中

かりともあふあうと神の春

天下茶家

巴云

春情

滝あや園山に燈も凄くそ

夢波

夾の月嶮岨ハ終くあろふ

飛岳

葦の主同へ々あ古に人々あし

梅の風宗祇の舞をさそひう

青波

白奥に去るきもあろふあひう

あうけにるゆめはあま子まんさ

るの月までもうつくしく春の水

あえハ山崎とこそはるある



